

Windows 版 apcupsd のインストール

1

<http://www.apcupsd.com/> からバイナリをダウンロードする。

2

ダウンロードした「winapcupsd-3.14.8.exe」をダブルクリックしてインストールを開始する。



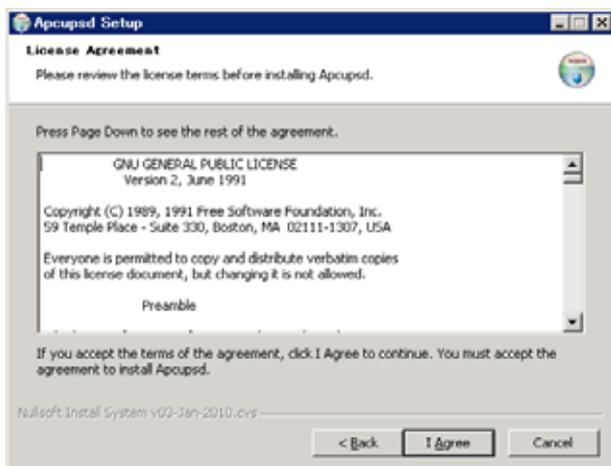
3

次のダイアログボックスが表示されたら「Next>」ボタンをクリックする。(インストールの開始)



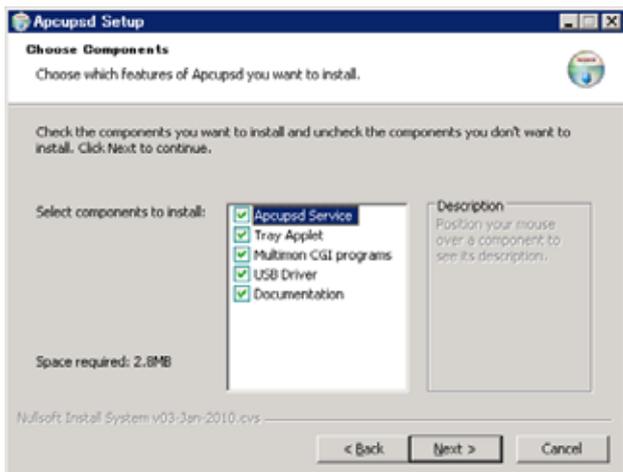
4

次のダイアログボックスが表示されたら「I Agree」ボタンをクリックする。(ライセンスの確認)



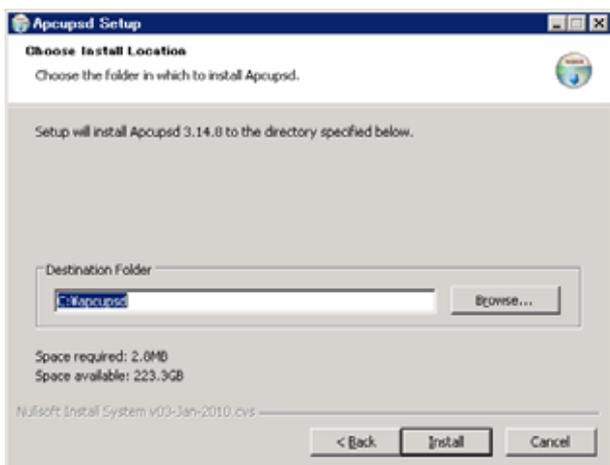
5

次のダイアログボックスが表示されたら「Next>」ボタンをクリックする。(インストールするものの選択)



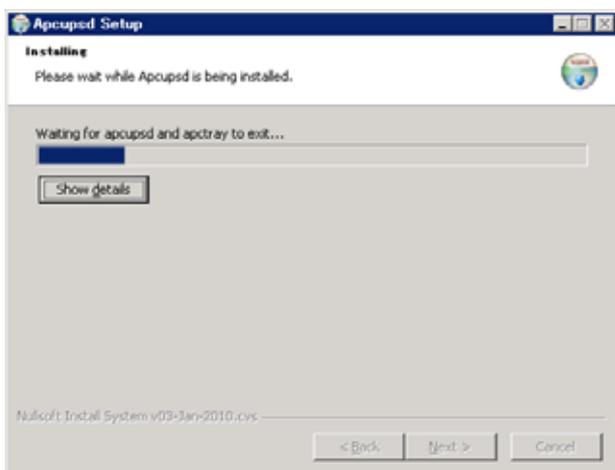
6

次のダイアログボックスが表示されたら「Next>」ボタンをクリックする。(インストール先フォルダの指定)



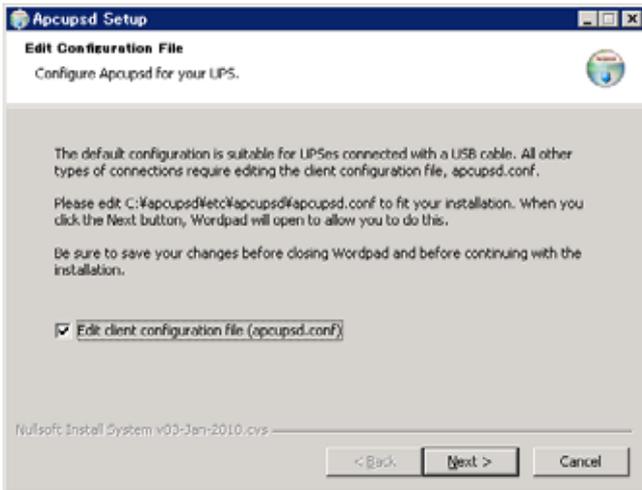
7

インストールが始まる。



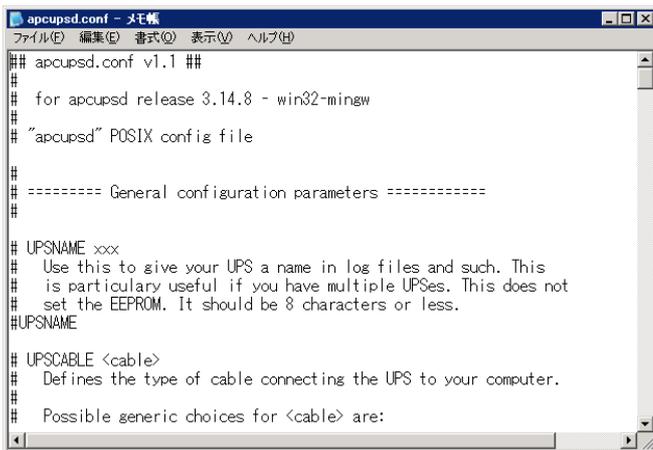
8

次のダイアログボックスが表示されたら「Next>」ボタンをクリックする。(設定ファイルの編集の有無)



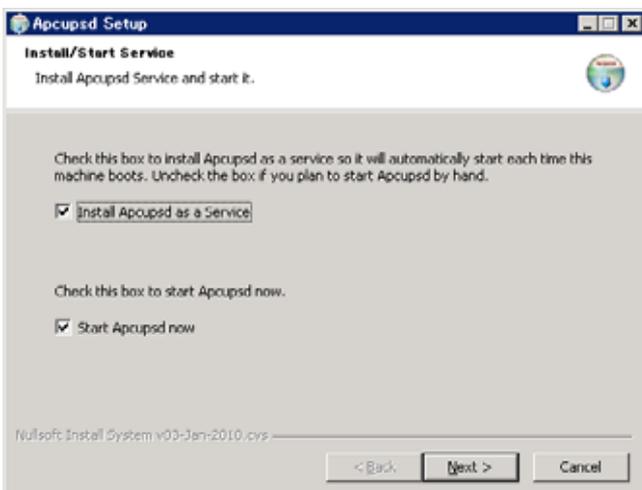
9

設定ファイルの編集。もちろんあとから編集しなおすことができる。



10

次のダイアログボックスが表示されたら「Next>」ボタンをクリックする。(サービスとしてインストール、apcupsd をすぐに起動)



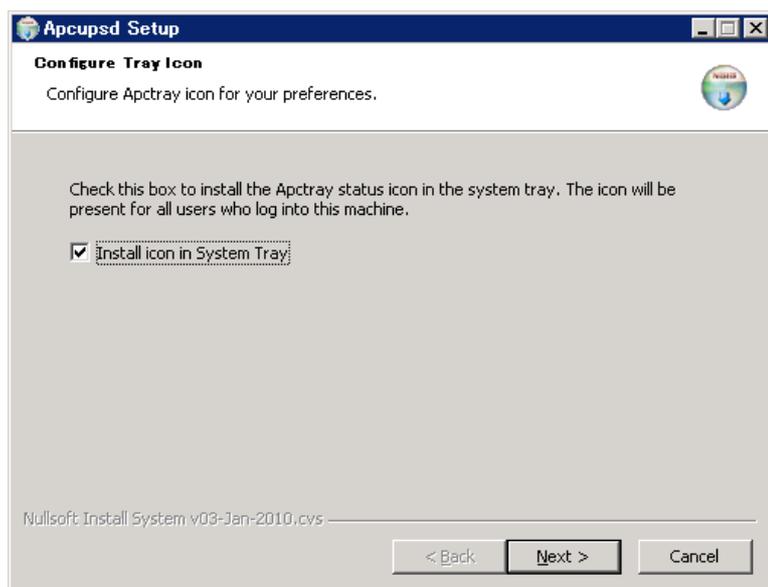
11

次のダイアログボックスが表示されたら「OK」ボタンをクリックする。



12

次のダイアログボックスが表示されたら「Next>」ボタンをクリックする。(システムトレイにアイコンを表示させるかどうかの設定)



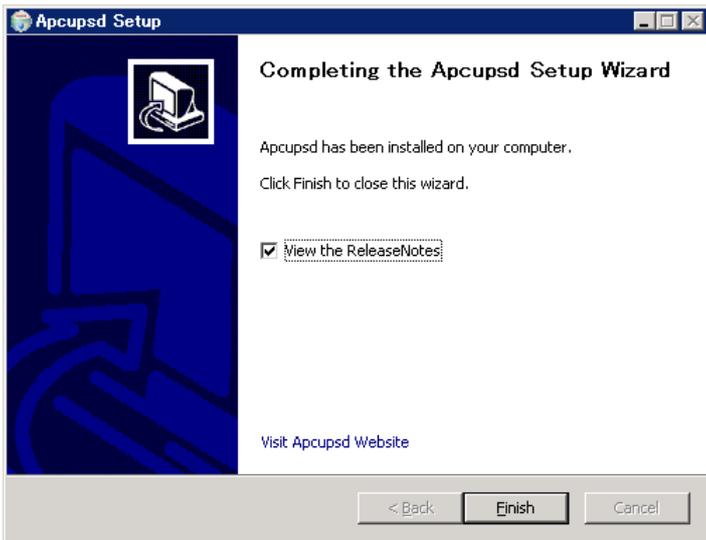
13

次のダイアログボックスが表示されたら「OK」ボタンをクリックする。



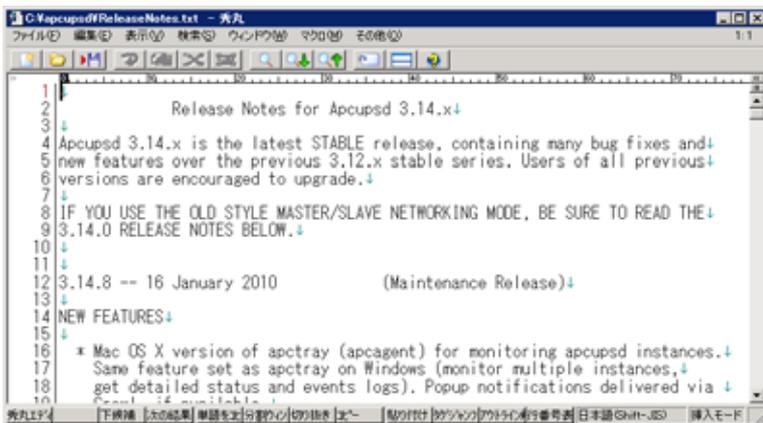
14

次のダイアログボックスが表示されたら「Next>」ボタンをクリックする。(リリースノートの表示の有無)



15

リリースノートが表示される。



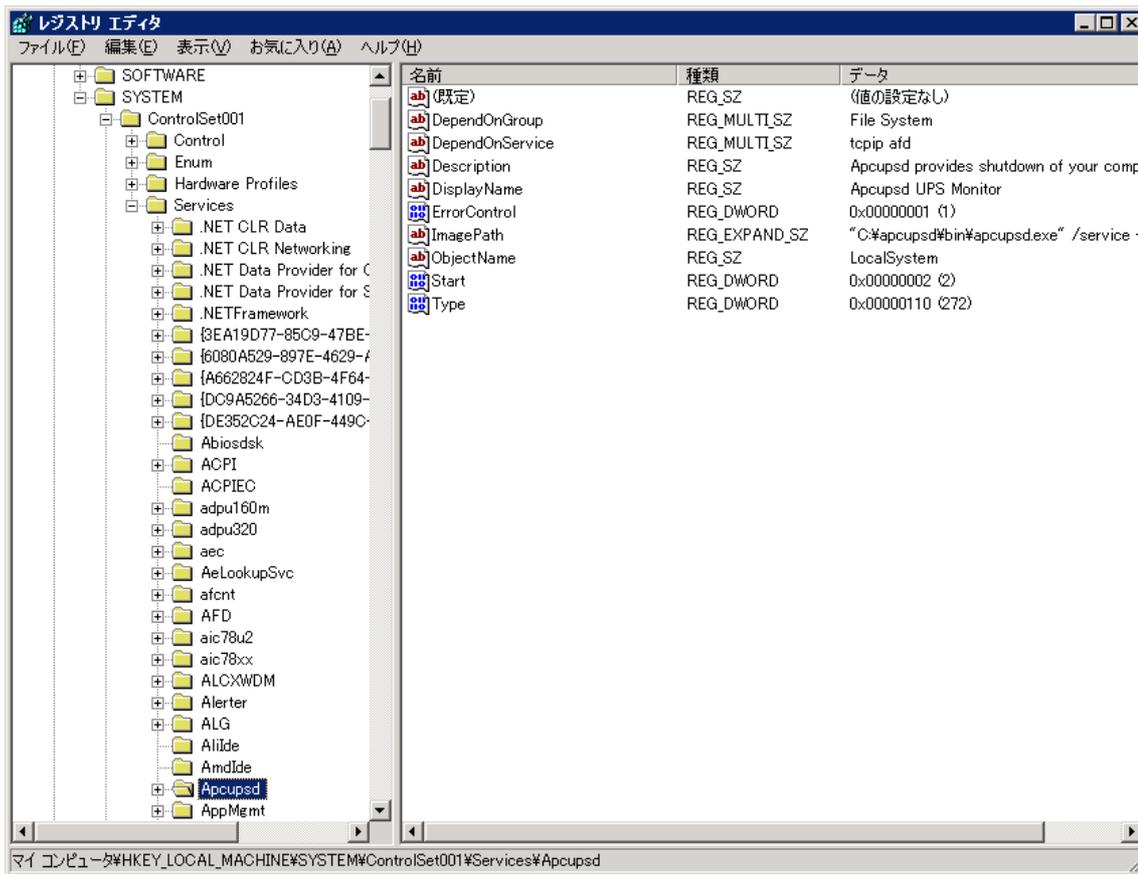
15

インストールが終了する。

Windows レジストリの修正

Windows 版でサービスとしてインストールした場合には、「apcupsd.exe /service」と「/service」オプション付きで実行されるようだが、これにさらに「-p」オプションが必要なようだ。そのため、インストール後に Windows レジストリを一部修正する。

修正するには、レジストリエディタを起動して（「スタートメニュー」 - 「ファイル名を指定して実行」 - 「regedit」と入力して「OK」ボタンをクリック）、起動したら「編集」メニューの「検索」をクリックして、「検索」ダイアログボックスで「検索する値」に「apcupsd.exe」と入力し、「検索対象」を「データ」に絞ってから「次を検索」ボタンをクリックする。



HKEY_LOCAL_MACHINE

SYSTEM

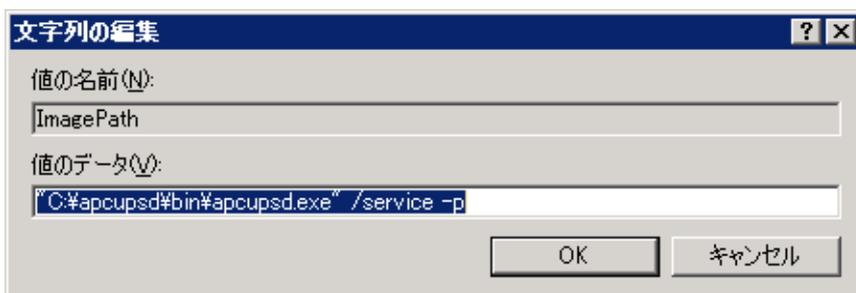
ControlSetXXX

Service

apcupsd

ImagePath

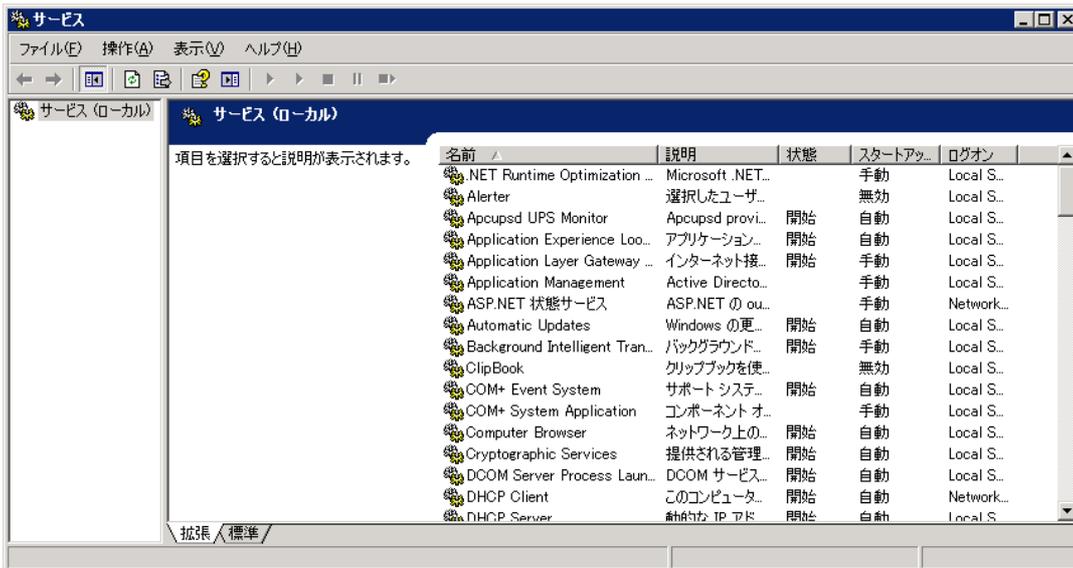
の「値のデータ」の末尾に半角スペースを空けてから「-p」を加え、「OK」ボタンをクリックする。



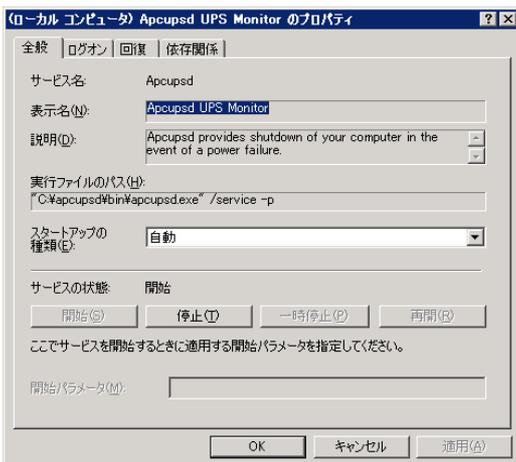
F3 キーを押すか「編集」メニューの「次へ検索」を実行する。レジストリ内を検索して該当箇所すべてを修正する。

Windows サービス

apcupsd を Windows サービスとしてインストールした場合には、スタートメニュー - 「管理ツール」 - 「サービス」を選択する。サービスダイアログボックスが表示されたら、「Apcupsd UPS Monitor」をダブルクリックする。



「Apcupsd UPS Monitor のプロパティ」ダイアログボックスが表示される。正常に起動しているときは「サービスの状態」が「開始」になり、「停止」ボタンが有効になっている。再起動する場合には「停止」ボタンをクリックしてから「開始」ボタンをクリックする。Windows レジストリを修正した場合には「実行ファイルのパス」に「-p」が加えてあることがわかる。



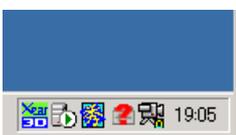
ApcTray の使い方

Windows 版 apcupsd の場合、タスクトレイに常駐する ApcTray がある。ApcTray では UPS との接続状態や UPS の状態を簡単に知ることができる。

- ・UPS と正常に接続し、UPS が十分に充電されているとき



- ・UPS と正常に接続できていないとき



・UPS と正常に接続し、UPS が現在充電中のとき

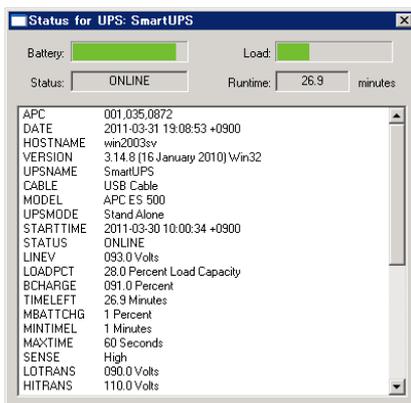


ApcTray をクリックするとメニューが表示される。



メニューから「Status」を選ぶと UPS の現在の状態が表示される。

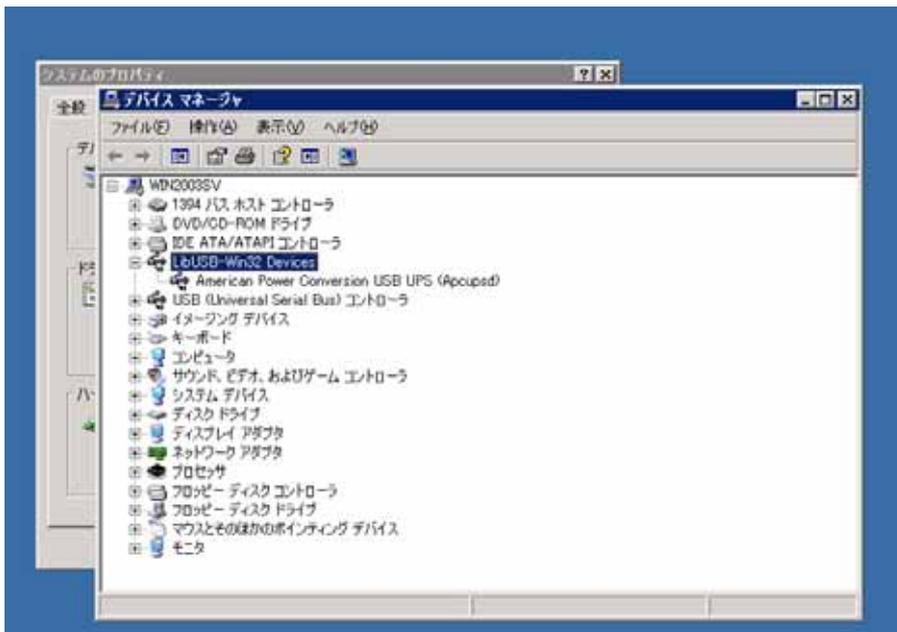
(家庭用の UPS「APC ES 500」での例)



「Battery」が UPS の充電状態、「Load」が UPS に接続されているサーバなどの機器の負荷状態。Load の値が高いほど負荷状態が高くなり、UPS からの電源供給の時間が短くなる。「Runtime」が現在の負荷状態で UPS からの電源供給が可能な(予想)時間。

USB ケーブルでの接続

Windows 版で USB ケーブルで接続したとき、「LibUSB-Win32 Devices」 - 「American Power Conversion USB UPS(Apcupsd)」と認識している状態が正常である。



「バッテリー」に「HID UPS Battery」、「ヒューマンインタフェースデバイス」に「American Power Conversion USB UPS」となっているときは、正常に認識していないようだ。



Windows Server 2008 の場合

Windows Server 2008 で apcupsd をインストールしてみたとき、デバイスマネージャで「バッテリー」に「HID UPS Battery」、「ヒューマンインタフェースデバイス」に「American Power Conversion USB UPS」として認識された。「HID UPS Battery」アイコンに×印は付かなかったが、実際には UPS (このときは家庭向けの ES-500 を USB ケーブルで接続) を認識できなかった。

「LibUSB-Win32 Devices」もオープンソースとして公開されているようで

http://sourceforge.jp/projects/sfnet_libusb-win32/

http://sourceforge.jp/projects/sfnet_libusb-win32/releases/

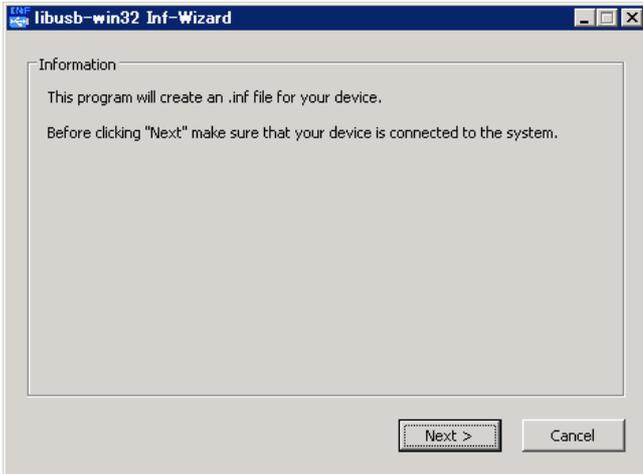
から「libusb-win32-snapshot-1.2.4.7.zip」をダウンロードし、解凍する。

「libusb-win32-snapshot-1.2.4.7.zip」の中には「libusb-win32-bin-1.2.4.7」(バイナリ)のほか、「libusb-win32-debug-1.2.4.7.zip」「libusb-win32-src-1.2.4.7.zip」(ソース)などが収録されていて、「libusb-win32-bin-1.2.4.7.zip」を取り出し、解凍する。「libusb-win32-bin-1.2.4.7」フォルダの中の「bin」フォルダの中の「inf-wizard.exe」が本体のようで、これをダブルクリックして起動する。

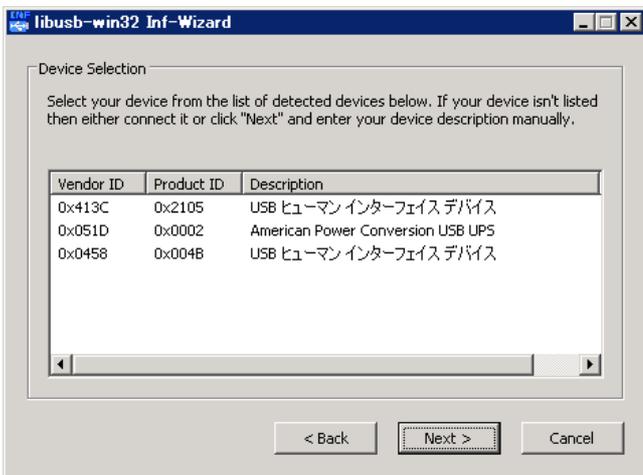


起動すると「.inf」ファイルを動的に作り、インストールするようになっているようだ。

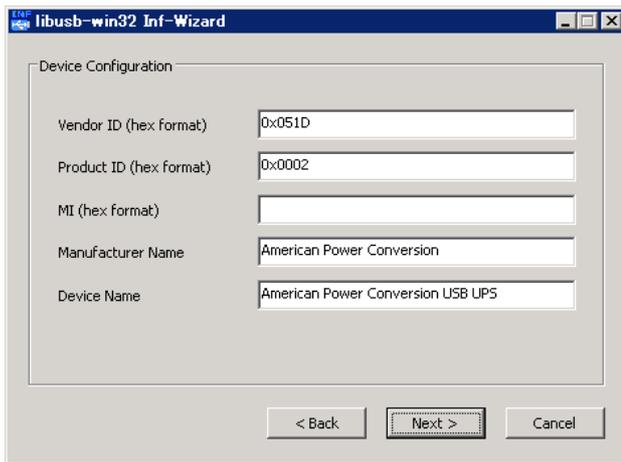
起動した直後のダイアログボックス。



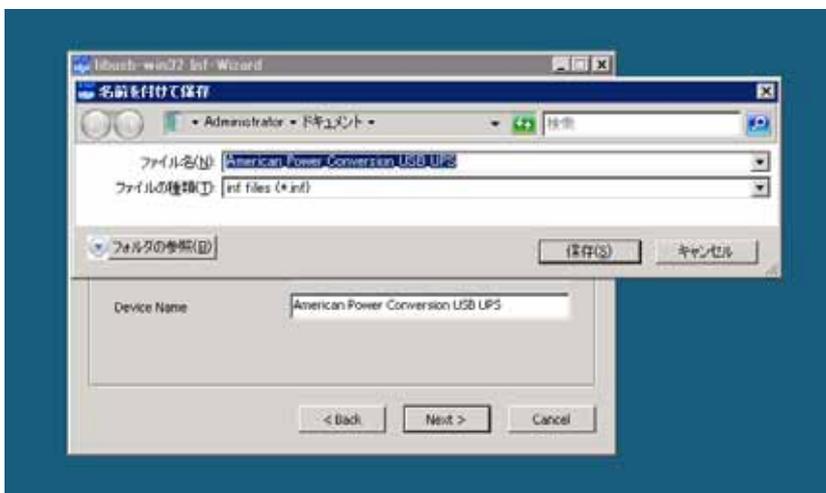
「Next」ボタンをクリック。



「American Power Conversion USB UPS」をクリックして選んでから「Next」ボタンをクリック。



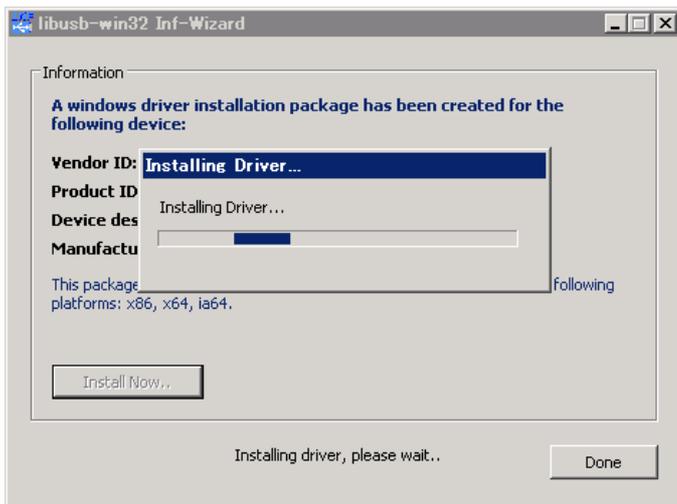
「Next」ボタンをクリック。



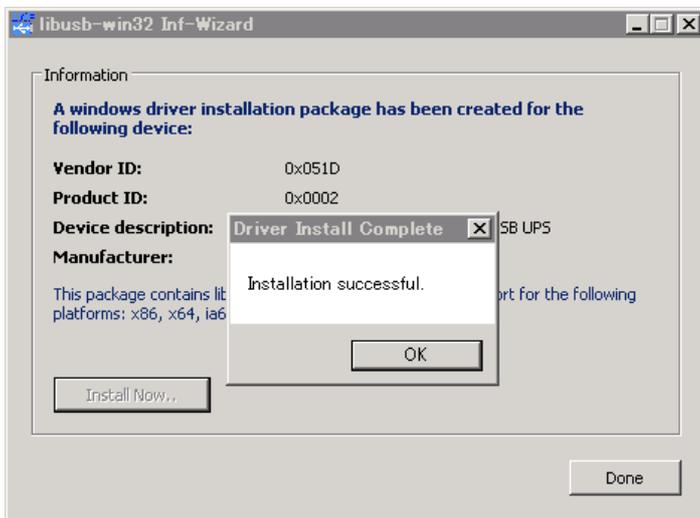
「.inf」ファイルの保存先を確認してくる。「保存」ボタンをクリック。



「.inf」ファイルが作成される。「Install Now」ボタンをクリック。



ドライバのインストールが始まる。



終了する。

UPS を認識するようになった。



インストールされたものを調べてみると

「amd64」「ia64」「x86」フォルダ(それぞれのアーキテクチャごと)に「libusb0.sys」「libusb0_x86.dll」(ドライバ)

「American_Power_Conversion_USB_UPS.cat」(セキュリティカタログ)

「American_Power_Conversion_USB_UPS.inf」(作成された inf ファイル)

「installer_x64.exe」「installer_x86.exe」(インストーラ)

があった。

参考

Packetwatch Research

<http://www.packetwatch.net/documents/guides/2010030801.php>